

豚事協が第 26 期通常総会開催

〜ゆめ配合飼料の価格公表を“購入者限定”に〜

日本養豚事業協同組合(豚事協)は 7 月 24 日、東京都・大手町サンケイプラザにおいて第 26 回通常総会を開催した。組合員を 10 人増やして 443 人とし、税引後当期利益として 4805 万 4811 円の利益をあげ、純資産をさらに増やして迎えた総会となり、前期と同様、4000 万円を利用分量配当金として組合員に還元することなど、すべての議案が可決・承認された。役員改選の年には当たらず、松村昌雄理事長は、「良い豚・良いえさ・良い管理」を目指す豚事協のモットーに、自ら「良い仲間」を加えて、残る 1 年の任期、次世代への継承を意識しながら協同組合としての理念を再構築し、組合員に利益をもたらす運営に努める考えを示した。

総会には組合員のほか関連団体や協賛企業などから約 200 人が参加した。議事終了後には、若手中心に今年 6 月に実施した米国視察研修の報告、同視察研修をコーディネートした大竹聡獣医師((株)スワイン・エクステンション&コンサルティング)による記念講演『米国における養豚生産者主体の生産システムの最新情報』、そして懇親会と、活気がみなぎる 1 日となった。

総会の冒頭、松村理事長は、組合の中心事業である共同購入販売事業を多くの組合員が利用して組合の財政基盤強化につながっていることに謝意を示す一方、「まだ、自分たちの行っている活動を理解していない人もたくさんいる。ここは純然たる組合員が自分たちのために活動している組織であって、他からの支援は 1 円もない。だから、入った以上は組合のために頑張ってください」と語気を

強める場面もあった。そして、総会議事に入ったあと、矢原芳博専務に委ねた新年度の事業計画案についての説明のなかで、“その心”が明らかになった。

矢原氏は、会員に向けては既に“ゆめ通信”の誌面において理事長名で伝えているとしたうえで、指定配合飼料「ゆめシリーズ」の四半期ごとの価格公表を、これまで組合員全員に行ってきたものを、「購入組合員」に限定したことを報告。「公表した価格が独り歩きして他社飼料の価格交渉に利用されるなどの弊害を防止し、ゆめシリーズ利用組合員の利益を最優先したい」として理解を求めた。原料情勢や、新たな加工ニーズに対応するなかで豚事協は柔軟に対応を続けてきたが、努力して価格交渉した結果が、配合飼料メーカーとの価格交渉にのみ利用され、その結果、組合としての扱い量が伸びず、指定配合を受託してきたフィード・ワンとしても柔軟な価格対応が難しくなってきた状況を踏まえての苦肉の策となる。

この問題は豚事協が設立されて間もなくから直面してきた懸案であり、組合員を拡大し、そのスケールメリットを会員に還元したいと考えてきた 2 人の理事長のジレンマであり続けてきた。実際に、四半期ごとの飼料の価格情報を得ることを主な目的としてきた組合員にとって、今回の措置は痛手になるかもしれないが、豚事協が設立から 26 年にわたって組合員、業界に提供してきたサービスや情報がそれだけのものではなかったことは組合員だからこそ理解しているはずだ。組合員の世代交代が進むなか、松村氏が、組合員の減少も覚悟たうえて、あえて組合の理念を問いかけている意味を、組合全体で再認識する時機なのかもしれない。

松村理事長、残る任期の全力疾走誓う

～次世代へのバトンタッチ強く意識しながら～

7 月 24 日に開催された豚事協の通常総会で松村理事長は、現在の任期をもつての引退を感じさせるような発言を自身の挨拶に含ませながら、組合員の気もちの引き締めを図った。以下、松村氏の総会挨拶から、印象に残った言葉を箇条書きで紹介する(抜粋・要約)。

▼豚事協設立から 26 年を迎えた。この間、組合員と賛助会員と関係機関と一緒に力を合わせながら、100%自前でよく頑張ってきた。

▼長年掲げてきた「良い豚、良いえさ、良い管理」という 3 つの原則に私は「良い仲間づくり」を加えて、少しでも安く良い商品を安定供給していくんだというつもりで 1 年間頑張った結果、多くの商品が前年を上回る販売実績をあげられた。

▼組合を運営しているのは組合員であり、多くの方々のそういう気もちがあればこそ、必要とされる組合であり続け、これからも発展するはず。

▼新しい会員が 18 人入ったが、退会者が 8 人でつごう 10 人増えた。現在 443 人だが、26 年間に加入した数は延べ 750 人を超えており、300 人近い方が、やむを得ず廃業等で離れた。そうしたなかでも会員が増え、取引数量も増えているのは、良いものを安定供給していることへの評価があったということではないか。

▼これからも、厳しい経営環境のなかで自給率を守りながら、次の世代を担う後継者をつくり、これからもその中心的役割を果たしていけるような組合運営を心がけている。

▼自分たちで努力をして、国産豚肉を支持してくれるすべての国民に愛される豚肉の生産をさらに進めていくのが組合の使命。組合運営を担っている理事、各地域をまとめてくれている支部長も大変若返りしているし、やる気も十分。

▼世代交代が遅れているのは理事長の私 1 人。自分にも残さ時間はもうさほどないので、あとの時間は目いっぱい頑張って、次の世代に組合運営を譲るべきだろうと考えている。

▼理事長就任時、組合員 500 人の目標を定めたが、残念ながら未達成。頑張ってもこれはなかなか解決できない。しかし、豚事協にはこれだけの企画もできれば人も集まってもらえる。

▼まだ世のなかには自分たちのやっている活動を理解していない人もたくさんいる。しかし、豚事協は純然たる組合員が自分たちのために活動している組織であって、他からの支援は 1 円もない。だから、入った以上は組合のために頑張してほしい。

▼豚舎建築の 1 母豚当たり設備投資金額が 300 万円では足りなくなっている。いずれ設備投資しなければ経営は続かない。何をどう考えてこれから自分の経営を乗り切っていくのかは各人に委ねられるが、組合活動を通じて多くの方々に何らかの影響を与えられるような魅力ある活動をしていくのが豚事協。再度原点に立ち返り、良い豚、良いえさ、良い管理、そして良い仲間づくり。本年もこの精神で組合を運営していきたい。

大きな農協組織と豚事協の「違い」は…

～豚事協総会でフィード・ワン(株)の庄司社長へ

豚事協の指定配合飼料「ゆめシリーズ」の製造を受託しているフィード・ワン(株)の庄司英洋社長は 7 月 24 日、都内で開催された豚事協の総会で来賓挨拶し、共同組合としての本来の理念に沿って養豚生産者の下支えをしている事業に賛辞を贈った。

庄司氏は、自身が豚事協総会で挨拶するのが 5 年連続の 5 回目になると振り返ったうえで、優良決算が続く豚事協の活動を、「大きな農協組織」と対比しながら論評した。

庄司氏は両者の“違い”として、①使命感…日本の養豚を何とかするんだという大きな使命感。組織が大きくなりすぎたり分散したりしてしまうとどうしても使命感が失われてしまうが、豚事協は非常にシンプルで、日本の養豚をしっかりと支える共同組合に徹している、②専門性…様々な形で良い資材、例えばトピグス種豚 TN70 だとか、メンデルジャパンの精液をしっかりと養豚生産者に供給している、

③採算マインド…農協だから儲けなくていいんだということではなく、しっかり事業として成り立つことが大事で、養豚経営者もそうだが、共同組合のなかでも、自分たちの採算は自分たちで確保するというしっかりしたマインドがなければ、結局、持続的に良い取組みを続けられない。この 3 つを満たしているのが豚事協であり、だからこそ、この養豚が苦しい、農業が苦しいと言われながら、会員数がまた 18 増 8 減、おそらく会員の母豚数ベースではもっと増えていて、大きな広がりを見せているのだと思う。私は豚事協のほかに、事業共同組合としてこれほど成功しているところを見たことがない」などと褒め讃えた。

AI カテーテル前年比 16%増の 127 万本 ～ゆめ配合飼料は年間総出荷量 9 万 8059t～

豚事協総会の事業報告のなかでは、2025 年度の共同購入販売事業の実績が報告された。指定配合飼料“ゆめシリーズ”の年間総出荷量は 9 万 8059t、前期比 107%となり、加重平均価格は期初(2025 年 5 月)には 6 万 539 円だったのが、期末(2026 年 4 月)には 6 万 2437 円で 1898 円の値上げとなった。

その他の扱い資材の実績は表に示したとおり、AI カテーテルが引き続き販売を伸ばして 241 人による 127 万 3000 本(前年比 116%)だったほか、

■豚事協第26期（2026年4月期）の共同購入販売事業

共同購入販売事業利用組合員数 375名（利用率：85%）

取扱品目		数量	数量 前年比	金額 (千円)	利用 組合員数
飼料	直接	6,582 t	96%	454,698	21 名
	間接	119,397 t	104%	6,892,626	93 名
自家配用プレミックス		43,700 kg	100%	21,581	23 名
混合飼料		117,680 kg	142%	41,934	93 名
精液・AI関連		271,002 d	107%	458,027	236 名
カテーテル		1,273,000 本	116%	51,332	241 名
凝集剤		241,808 kg	99%	143,819	73 名
資材・注射針・妊娠診断装置				77,498	197 名
Topigs種豚		3,186 頭	110%	456,853	59 名
脱臭剤		156,413 kg	104%	33,888	71 名

※数量、金額は概数。飼料価格は工場渡しベース。飼料の間接扱いについて、金額は推定値（事業高として計上されない）

Topigs 種豚は 59 人に 3186 頭(110%)、などが実績を大きく伸ばした。

パイプストーン方式の日本応用推進！

～大竹聡獣医師、豚事協総会で記念講演～

(株)スワイン・エクステンション & コンサルティングの大竹聡獣医師は 7 月 24 日、豚事協総会で記念講演を行い、米国で主流になりつつある“パイプストーン・モデル”の日本での応用を提案した。個々の養豚生産者は肥育経営に徹し、繁殖農場(サウセンター)はグループの肥育経営が共同出資し、獣医師クリニックが管理・運営する形。

繁殖と肥育を完全に分離することで、繁殖農場で重要性の高いバイオセキュリティを集約・強化する一方、肥育農場は、安定期に健康な子豚の供給を受け、肥育経営に徹して収益確保が目指せる。パイプストーンシステムは米国の中小養豚を中心とする 470 戸の肥育農場が株主として参加し、共同出資のサウセンターを 80 農場保有し、母豚総数は 42 万頭で全米 2 位の生産グループとなっている。大竹氏は、パイプストーンシステムの日本における情報提供・普及の窓口を自身が任されているとして、積極的な検討を促した。

■養豚大学校が新規受講生を募集中！

～9 月 21 日に麻布大学で開講、来年 2 月まで～

(一社)日本養豚協会(JPPA)が主催する日本養豚大学校の第 11 期受講生の募集が行われている。日程は、スクール①:9 月 2～4 日、スクール②:11 月 18～20 日、スクール③:2027 年 2 月 16～18 日、の計 9 日間。麻布大学(神奈川県相模原市)をメインキャンパスとする。半年以上の農場就労経験がある(一般的な養豚用語を理解できる)ことが要件で、経験年数 5 年以内、年齢 40 歳未満の人を優先する。

定員 40 人で、受講料は 1 人につき 18 万 7000 円(税込)となっている。受講希望者は取り急ぎ下記に電話で連絡を。

▼JPPA(海老原): TEL 03-3370-5473